FTI News
森林研修所ニュース
林野庁 森林技術総合研修所 広報誌
Forest Training Institute of the Forestry Agency
2026
10月
令和８年
No. 112

秋の深まりとともに、山々の木々も美しく色づく季節となってきました。森林技術総合研修所では、本年度も全国の多くの皆様にご参加いただき、森林・林業行政や技術を支える多様な研修を実施しています。

本号では、林業金融・税制を担う職員の専門知識向上とネットワーク形成を目的として実施した林業金融実務・税制研修に加え、内容を刷新して実施した森林総合監理士育成研修について振り返ります。

更には、現在、研修生募集中となっている新たに開設する治山（災害復旧）研修、木材の加工・流通について幅広く学べる木材産業・木材利用（実践）研修について紹介します。

研修所（本所）
研修紹介

## 林業金融・税制業務を支える専門知識の習得と担当者ネットワークの強化　林業金融実務・税制研修

### ■ 研修の背景・目的

林業金融実務・税制研修を開催し、全国の都道府県等から22名が参加しました。

林業金融・税制関係業務は、林業経営の継続や森林整備の推進を支える重要な行政分野ですが、融資制度や税制、債権管理、関係法令など幅広い知識が求められる一方で、担当者数が限られ、経験の蓄積や情報共有が難しい分野でもあります。

また、本研修の受講者には担当経験が比較的浅い職員も多く、制度や業務への理解を深めるとともに、全国の担当者同士が交流し、日頃の課題や悩みを共有できる機会を設けることも重要な目的として研修を実施しました。

### ■ 研修内容

研修では、林業・木材産業を支援する各種金融制度や林業関係税制の概要について学ぶとともに、債権管理や保証、時効制度、相続・破産、不納欠損など、実務上必要となる法律知識について専門家による講義を実施しました。

制度の仕組みや手続を理解するだけでなく、実際の業務の中でどのような場面で留意すべきかについて具体的な事例を交えながら説明が行われ、受講者は制度の背景や考え方についても理解を深めました。

受講者からは「制度や法律について体系的に学ぶことができた」「業務を進める上での留意点が理解できた」「漠然と感じていた不安が軽減された」といった感想が寄せられました。

また、意見交換の時間には、各都道府県における制度運用の状況や業務上の課題、工夫している取組等について活発な情報共有が行われました。

特に、林業金融・税制業務は担当者同士が横断的に情報交換を行う機会が必ずしも多くないことから「他県の取組を知ることができた」「同じ業務を担当する仲間とつながることができた」「今後相談できる関係を築くことができた」といった声も多く聞かれました。

### ■ 研修を通じて見えてきたこと

今回の研修を通じて、林業金融・税制業務においては専門知識の習得だけでなく、担当者同士のネットワーク形成も大きな意義を持つことが改めて確認できました。

制度や法律は改正や運用変更が行われることも多く、現場では判断に迷う場面も少なくありません。そのようなとき、研修で築いた人的ネットワークは大きな支えとなります。

また、受講者同士がそれぞれの地域の状況や課題を共有することで、自らの業務を客観的に見つめ直し、新たな視点や気づきを得る機会にもなったものと考えています。

### ■ 今後に向けて

本研修は２年ぶりの開催となりましたが、受講者からは専門知識の習得に加え、担当者同士の交流機会を評価する声も多く寄せられました。

林業金融・税制業務は、森林・林業施策を支える重要な基盤の一つです。今後も、制度や法令に関する理解を深めるとともに、全国の担当者が学び合い、支え合うことのできる場として、実務に役立つ研修の充実を図っていきたいと考えています。

研修所（本所）
研修紹介

# 森林総合監理士育成研修の再編と実践力向上に向けた取り組み

## 森林総合監理士育成（基礎・実践）研修

### ■ 研修の背景・目的

当研修所においては、森林総合監理士育成研修として、近年は、森林総合監理士基本テキストに沿った構成のオンライン講義の研修と、一定の区域を対象として森づくり構想を立案する実習主体の集合研修の、2本立てで実施してきたところですが、後者の研修はコロナ禍を経過する中で、年々参加者が減少傾向にありました。

こうした中、本年改定された「森林・林業基本計画」においては、森林総合監理士について「森林経営管理制度や森林計画制度等の円滑な運用のため、地域林政アドバイザーや森林総合監理士等による市町村の体制整備、技術的支援等を促進する。その際、森林総合監理士については、集約化構想の対象地域の選定やその作成等に積極的に関わることができるよう、研修による技術力向上等に取り組む。」と記載されています。

こうした中で、地域の森林・林業、木材産業の発展を図るためには、森林総合監理士の果たすべき役割は重要であり、有資格者が高齢化する中で、新たな有資格者を確保していくことが必要とされています。

また、基本計画の策定と並行して、林野庁本庁では「森林総合監理士の在り方に関する検討会」が開催され、一定の方向性が示されました。

こうした情勢を受け、森林総合監理士の主管課である林野庁研究指導課とも協議し、集合研修については、森林・林業基本計画や上記検討会の報告を踏まえた内容に再編することとなりました。

### ■ 研修内容

受講者数を拡大するという課題もありましたので、オンライン講義の研修については「基礎」研修として維持することとしました。

また、集合研修については「実践」研修と位置付け、これまでの実習の要素も残しながらオンライン研修に改編し、それに伴い「森林づくり構想」の立案に必要な「森林のゾーニング」に関する演習を行いました。

これ以外の科目としては、喫緊の課題である森林境界明確化に関する科目、デジタル技術に関する科目並びに森林・林業及び木材産業に関する全国の先進事例の科目をメインとすることとし、以下のカリキュラムを構成しました。

【森林境界明確化関連】
- CS立体図を活用した地形判読及び境界明確化
- 豊田市の集約化の取組

【デジタル技術関連】
- 森林ゾーニング支援ツール「もりぞん」の活用
- 林業におけるGISの必要性とQGISでの各種データの活用方法

【先進事例関連】
- (有)高見林業における森林経営(QGIS、LiDAR、ドローンによる薬剤散布など)
- 無線機と通信端末を組み合わせた安全管理システムの開発及び造林作業の機械化の取組
- 木材供給連携及び大径材利用の取組

### ■ 実施結果

実施結果としては、前年度の集合での実習研修の2.5倍に当たる62名の研修生の参加を得ることができました。

その理由としては、オンライン講義に再編したことにより遠方からの参加がし易くなったことに加え、ニーズの高い森林の集約化の取組や林業・木材産業の先進事例の取組を紹介する科目を設けたことによるものと考えられます。

各講義では質疑応答も活発に行われ、研修生の関心の高さが窺い知れました。また、受講後の研修生アンケートに書き込まれたコメントの中でも、各科目とも高く評価されており、主なコメントを要約すると、次のとおりとなっています。

【森林境界明確化関連】
- CS立体図を学ぶ機会を得られて良かった。主伐計画、路網計画、境界明確化等に活用したい。
- 豊田市が強い熱意で集約化に取り組んでいることが理解できた。非常に勉強になった。

【デジタル技術関連】
- 「もりぞん」を使用したことがなく難しかったが、今後勉強したい。業務に活用したい。
- 改めてQGISの必要性を理解した。オープンデータの所在、WEB教材を知ったので勉強したい。

【先進事例関連】
- GIS、LiDAR、ドローンなど新しい技術も取り入れて林業経営をされている姿勢が素晴らしい。
- so-kocoの開発者と利用者の双方の視点から話を聴けて大変勉強になった。
- 製材業の第一人者の話は貴重だった。連携して製材を供給する熱意がすごい。

### ■ 今後に向けて

担当者としては、各分野で活躍されているご本人の方々から熱量の大きい生の声を聴くことができたことは、研修生にとって大きな収穫だったように思います。

ただ、改善が必要な科目もあります。森林ゾーニングに関する演習については、QGISと「もりぞん」を活用したため難度が上がってしまいました。来年度は、森林ゾーニングの先進事例の講義を設定した上で、グループワークは取り組みやすい課題設定をするよう、検討しているところです。

今後とも、PDCAサイクルを回しながら、よりよい研修となるよう、また、森林総合監理士が一人でも多く増えるよう、本研修所として取り組んでまいります。

## 【新設】【研修生募集中※11月25日〆】

研修所（本所）
研修紹介

### 申請資料作成実習を通じた実践的技術の習得を目指す　治山（災害復旧）研修

■ 研修の背景・目的

災害復旧等事業は、山地や施設の速やかな復旧を図るとともに、再度災害や被害拡大を防止するため、迅速な対応が求められます。また、被災の状況や原因は現場ごとに異なることから、状況の把握、復旧工法の選定、設計・施工に当たっての留意点の整理など、技術者には経験と技術力が必要とされます。

一方で、都道府県における森林土木技術者は減少傾向にあるとともに若年化が進んでおり、災害復旧に関する技術力の向上が課題となっています。

このような背景を踏まえ、本研修では、治山に関する災害復旧等事業を担う技術者の技術力向上を図るため、近年の山地災害の特徴や災害復旧工法等を学ぶことにより、災害復旧等事業の現状や課題に関する知識を習得させるとともに、災害復旧申請資料の作成実習を通じて実践的な技術を身に付けさせ、災害復旧業務を的確に遂行できる技術者を育成することを目的とします。

本年度から新たに開設する研修ですので、奮ってご応募ください。

■ 募集概要

○対象者：都道府県職員
○計画人員：30名
○日程：令和９年１月26日(火)～29日(金)（４日）

日程表（案）

| 月日 | 研修科目 | 講師 |
|---|---|---|
| 1/26（火） | | |
| | 【講義】<br>・山地災害の現状と対応<br>・災害復旧等事業の制度　等 | 林野庁<br>治山課課長補佐　等 |
| 1/27（水） | 【講義】<br>・災害査定における<br>立会官の立場と責務 | 財務省<br>主計局司計課係長 |
| | 【講義】<br>・治山施設災害復旧等事業<br>及び災害関連緊急治山事業<br>の事例と留意事項等 | 林野庁<br>治山課災害査定官 |
| 1/28（木） | 【実習】<br>・災害関連緊急治山事業<br>申請資料作成実習　等 | 林野庁<br>治山課災害査定官　等 |
| 1/29（金） | | |

## 【〆切間近】【研修生募集中※11月11日〆】

研修所（本所）
研修紹介

### 最新技術から工場見学まで幅広く学べる
### 木材産業・木材利用（実践）研修

■ 研修の背景・目的

木材産業の振興や木材利用を促進するためには、地域に抱える諸課題を解決することが必要です。この研修では、地域の木材産業等に係る課題を解決できる者を育成することを目的として、素材の採材方法・流通、山元への還元につながるサプライチェーンの取組などをはじめ、研究者・事業体などから最新の情報を得て多角的な視点をもって地域における木材産業・木材利用の取組を学べるカリキュラムとなっています。ご応募をお待ちしています。

■ 主な研修内容

- 採材方法と丸太の流通について（ノースジャパン素材流通協同組合）
- 木材のサプライチェーンマネジメントの取組（森林パートナーズ株式会社）
- 木材利用促進のための最新技術（森林総合研究所）
- 国産材の集成材加工及びプレカット加工（中国木材株式会社）
- 国産材のLVL加工（株式会社キーテック）
- 国産材製品の輸出の現状と課題（日本木材輸出振興協会）

■ 募集概要

○対象者：地方公共団体職員、森林管理局・署等職員、森林総合監理士等
○計画人員：30名
○日程：令和９年１月18日(月)～22日(金)（５日）




森林技術総合研修所での講義



中国木材株式会社鹿島工場の見学

## コラム　仕事は“つながり”から動き始める
### ― 春の研修で出会った人たちを覚えていますか

教務指導官　山﨑 敬介

■ 成果より先にあるもの

今春の新規採用から半年が過ぎました。新しく加わった方々も、少しずつ仕事に慣れ、担当業務を任される場面も増えてきた頃でしょうか。一方で、「思ったより難しい」「自分はうまくできているだろうか」と感じることもあるかもしれません。

そんな時期だからこそ、今は一度立ち止まって考えてみてほしいことがあります。仕事は、自分一人の力で進んでいるのかどうか。研修の場に立つたびにこうしたことを感じることがあります。それは、仕事は成果よりも先に、人や文脈との「つながり」から動き始めるものではないか、ということです。

■ つながりが生み出す変化

例えば、人との関係ができると、安心して質問や相談ができるようになります。また、仕事の文脈が見えてくると、その意味や目的が理解できます。さらに、そこから自分自身への理解が深まり、自分がどのように関わればよいのかも見えてきます。

こうした変化は一見すると目に見えにくいですが、仕事を進めるうえで、とても重要な基盤となります。

■ 研修の場にみる「接続」の力

研修の場においても、グループ討議や実習などを通じて、こうした「つながり」が生まれる場面を数多く目にします。受講生同士や講師との対話の中で、安心感が生まれ、理解が深まり、それぞれの役割が少しずつ立ち上がっていく様子は、まさに仕事が動き始める過程そのものといえます。

■ 小さな関わりが仕事を動かす

着任直後や仕事を始めたばかりの頃は、正確にこなすことや成果を出すことに意識が向きがちですが、それと同時に、人や場の関係性を丁寧に築いていくことも大切ではないかと感じます。わからないことや感じたことを素直に伝えること、相手の言葉を丁寧に受け取ること、場の雰囲気に気づくこと。そうした日々の小さな積み重ねが、やがて仕事の流れをつくるのでしょう。

■ つながることから始めてみる

研修所へ集合する研修も、知識や技術を学ぶだけの場ではありません。講師や受講生との対話を通じ、異なる職場や経験と出会い、自分自身の考え方を見つめ直す機会でもあります。そうした出会いや気づきは、新たに仕事を始めた人だけでなく、経験を重ねた人にとっても大切な学びになります。仕事は、一人で進めるものではありません。人と関わり、つながりながら、少しずつ形になっていきます。研修の場がその最初の一歩や気づきの一歩となり、新たに踏み出すきっかけになればうれしいのです。

## 編集後記

首席教務指導官　中熊 靖

秋分の日を過ぎて日が短くなり、落葉樹の葉も散る季節が到来しました。ここ高尾でも初秋から晩秋へと季節の移りゆく季節の変化を強く感じます。

早いもので、当研修所で実施する研修については、10月末時点で既に全体の４分の３程度を終了し、今年度もラストスパートの時期に入りました。現地実習を伴う研修も残りわずかとなり、これからは講義や現地見学を中心とした研修が続きます。

同時に、高尾周辺の気温もぐっと下がってきます。研修所の建物は築50年を超えているため、冬季はかなり冷え込みます。これから研修に参加される皆様には、体調を崩すことのないよう十分な防寒対策を講じていただきたいと思います。

研修生の皆様にとって有意義な学びの場となるよう、スタッフ一同これからも務めてまいります。興味のある研修がありましたら、積極的にお申込みいただければ幸いです。



研修所前のケヤキ並木



正面ゲート付近のカツラの木

FTINews｜No.112

林野庁 森林技術総合研修所
〒193-8570 東京都八王子市廿里町(とどりまち)1833-94
TEL｜042-661-7121(総務課)／-3560(教務指導官室)
-3565(技術研修課)／-3567(経営研修課)
URL｜https://www.rinya.maff.go.jp/j/kensyu/kensyuuu_zyo.html

林業機械化センター
〒378-0312 群馬県沼田市利根町根利1445
TEL｜0278-54-8332
URL｜https://www.rinya.maff.go.jp/j/kikai/kikai_ka_senta.html